

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301286		
法人名	社会福祉法人秋葉会		
事業所名	グループホーム桔梗野の家		
所在地	〒039-2241 青森県八戸市市川町字桔梗野15-7		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたグループホームである。地域の集まりや催し物には積極的に職員、利用者共に参加している。スーパーに行ったり、散歩をしていると利用者が知人や近所の方から挨拶や声掛けをされたり、地域と支え、支えられる関係が深まってきている。運営推進会議には地域の各会長様や近所の方の参加があり、地域に根ざしたグループホームとなりつつある。地域の方と共に、花見やぶどう狩りに出掛けたり、桔梗野の家交流会への参加人数も多くなっている。利用者様の希望で日常的に買い物やドライブを実施している。食事は季節感のある物を取り入れ夏季を除いては毎月刺身の日もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

大通りから数十メートル離れた閑静な住宅街にあり、デイサービスと隣接している。グループホーム独自の理念のもと、職員は利用者と共に地域の集まりや催し物へ積極的に参加したり、地域住民との日頃からの交流、隣接したデイサービスの開放等、地域に根差したグループホームとなっている。日頃から散歩やドライブの機会を設けたり、居心地の良い共用空間作りがされていたりと、利用者は思い思いに日々ゆったりと過ごしている。職員は定期的に目標を掲げて達成に向けて取り組んだり、グループホーム全体のレベルアップも図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員で考え、掲げている。職員室に理念を掲示し、全員で共有し実践につなげている。	法人理念の他、グループホーム独自の基本理念を職員室に掲げ、新入社員の研修や職員会議で理念の共有を行い、ケアに活かしている。また、年に1度職員間で理念の見直しの機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区や町内会、小学校、保育園の行事に職員、利用者共に積極的に参加している。また利用者が近くのスーパーにでかけたり、利用者が散歩していれば声掛けや、花や野菜を持たせてくれたりしている。	子育てメイトの行事参加や、地域の夏祭り、盆踊りへの参加等、積極的に地域との交流がある。また、月に1度隣接しているデイサービスを会場にした地域行事への参加や幼稚園児が訪問する機会もある。散歩中には地域住民が声を掛けてくれたり、野菜や花の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同敷地内にあるデイサービスセンターを開放し毎月地域のお年寄りのサロンの開催に管理者が講話をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の委員の会議への参加者も多く、お互いに話しやすい場となりつつある。地域の行事等の情報を得て、ボランティアのお願いしながら参加している。	2ヶ月に一度、市役所の担当者や民生委員、町会長、地域住民、家族等が参加し、グループホームからの報告や意見交換がなされている。また、年に一度懇談会も開催し、その場でも意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当には電話や出向いて相談にのっていただいている。	市の担当からは逐一入居状況の問い合わせや、情報提供、案内等があったり、グループホームからも必要に応じ電話や出向いたり、双方で協力関係の構築がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて、身体拘束をしないケア禁止行為等の確認をしている。鍵についても、夜間帯のみの施錠としている。	定期的に内部研修を行い、身体拘束をしないケアについての周知や理解を深め、共通認識のもとケアの実践が行われている。日中は一切施錠せず、外に出たがる利用者に対しては、制止せずさりげなく付き添い気持ちが落ち着いた頃に声を掛けグループホームに戻るといったケアが日頃から行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待について学び、またミーティング等ではお互いに理解や遵守にむけ、注意し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、外部研修にて学習の機会を設けている。現時点で必要性のある利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明をしている。疑問や不安がある時には、その都度詳しく説明をし理解納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や御家族様参加の行事等で、気軽に話せるように会話の場をもうけている。利用者からの要望にも耳を傾けている。	家族に対しては、少ない方でも月に1度は面会がある為、面会時には要望等確認したり、必要に応じ電話での聞き取りも行っている。本人や家族から出された要望に対しては記録に残し速やかに対応し、全職員にも周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を聴く様に心がけている。2年に1回以上は面接を行い、意見を反映させている。	月に1回の職員会議や代表者との面談を実施し、意見や要望を聞く機会を設けている。代表者や管理者は、勤務や異動に関しても職員の意見を重視し、職員の働きやすい環境作りがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来た際には、職員の業務等を把握し、向上心を持って働けるよう職能評価を行なっている。また資格取得に向けた支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員一人1研修を目標に実施するようにしている。また法人全体の内部研修計画を基に年4回の研修と資格取得の支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸市グループホーム協議会、全国組織にも加入し、研修会等に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用について相談があったときには、必ず御本人様に会い、心身の状況や御本人の思いを受け止め、職員も本人に受け入れられるように関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様のこれまでの御苦労や、頑張ってきたことを理解し、不安や要望にじっくり耳を傾け安心安全のサービス提供にむけて、協力し合い、信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様はどうあってほしいと思っているか、又御本人はどうありたいと思っているかを見極め、それぞれの思いを組み入れたプランにつなげる努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、ホームでは今までの暮らしが継続でき共に生活できるよう、支え合うように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様への今までの暮らしの継続は御家族様の協力があってこそできるものであることを認識し、御家族様の負担にならない範囲でお便りや電話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様個々に違った関係継続の支援を心掛けている。たとえば近くのスーパーに出掛けることで、馴染みの知人や友人と会い会話したり、自宅周辺へのドライブを行なっている。	離れた自宅への外出支援を個別に計画したり、家族協力のもと墓参りや美容院への外出支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が保てるように、努めており、馴染みの席で馴染みの利用者同士で過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡をとったり、元々地域住民の方達なので家族の方が立ち寄りたたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の思いではなく、一人一人の思いや暮らし方を把握し継続出来るよう努めている。意向の困難な場合は本人の行動や表情から判断するよう努めている。	家族協力のもとセンター方式を活用し、思いや意向の把握に努めている。また、不足分や追加の気付き等は日々の業務の中で職員間で密に情報交換・共有を行い、本人らしい暮らしの為のケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問したり、ご本人、ご家族様、ケアマネージャー等から聞き取るようにしている。利用後もどんな生活をしていたのか面会時に聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ利用者一人ひとりのできることに注目し、出来ることは継続できるようにその場の提供に努めている。又、その日の身体状況や気分によっても違うことを職員は把握しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を定期的に見直し、ご本人ご家族様から、思いや意見を聞き反映させるようにしている。全職員で意見交換、カンファレンスを行なっている。	カンファレンスにはなかなか家族参加が困難な状況ではあるが、面会時や電話連絡で意向を確認し、各担当や計画作成者が毎月ケア会議の中で情報を共有し、3カ月に1度計画の見直しを行っている。状態変化時には速やかに計画の見直しを行い、現状に即した計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎のファイルに日々の記録をし、その記録を通して、気づきや状態観察を職員全員で共有し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして、負担になる受診の回避や通院、移送のサービス支援を柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で安心して暮らせるように、警察や民生委員やタクシー会社、ボランティアの協力をお願いしている。又地域の行事には利用者、職員とも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人御家族様が希望する、かかりつけ医となっている。受診や通院は希望に応じ対応している。	入居時に本人や家族の希望するかかりつけ医の受診の支援を継続している。必要に応じ、専門医の受診も説明・同意のもと行い、適切な医療が受けられるよう支援がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。また敷地内にある通所の看護師から助言をいただくこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は頻繁にお見舞いに行き御家族様、病院関係者らと情報交換し、早めに退院出来る体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う看取り体制はまだ整備不十分だが重度化した時又終末期については、その都度御家族様に説明し、理解していただいている。ホームで出来ること、出来ない事は日々説明をしている。	入居契約時に、重度化や終末期の際にグループホームで行える範囲の対応を十分に説明をした上で、家族の理解を得ている。入院時には積極的に職員が面会に行ったり、入院時の方が一の状況の際の対応を、事前に家族と話し合い、方針の共有が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命法を全員が受講している。夜間時の緊急対応時のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の町内会長さんや近隣の方の協力があり、避難訓練や非常通報装置には職員だけでなく地域住民も登録していただくなど協力体制が出来ている。	年に2回、消防署や近隣住民と共に避難訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。また、年に1度発電機の使用訓練を行ったり、非常用の備蓄も様々揃えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で尊厳について学び認知症という病気をかかえていても一人ひとりを大切に、プライバシーの保護についても徹底している。	グループホームの理念や5つの接遇目標を基に内部研修を行い、一人ひとりに合わせ、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応の徹底がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様が決める場面や選択肢を用意して、自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物やドライブ、散歩等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら日々支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理・美容の方にお願ひし、本人希望の髪型や顔そりをしていただいている。起床時や入浴後にはクリーム等で顔を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな物を取り入れた献立を用いている。準備、片付けは利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るようにしている。	職員が利用者の希望を取り入れた献立を作成し、本部の管理栄養士が確認している。買い物は利用者と共に行い、出来る方は下ごしらえや準備・後片付けをともに行い、職員も利用者と食卓を囲んで食事が楽しめるよう支援がなされている。また、季節を感じられる食材の使用にも気を遣っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取状況をチェックし職員全員が把握している。定期的に栄養士に献立のチェックをしていただき、アドバイスをもらっている。摂取量少ない時は必要に応じてバナナ、おやつ等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の習慣により毎食後は難しいが、毎食後歯磨きの声掛けはしている。就寝前は職員が見守り支援し、義歯の洗浄や口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科のサポートを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の習慣や時間帯を把握し、トイレでの排泄を心掛けている。利用者全員トイレ使用している。	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、本人のリズムに合わせた声掛けや、不要な介助を行わないよう見守りでの対応等、個別の支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合った食品(ヨーグルト、バナナ、リンゴ等)を摂り、できるだけ下剤服用はしないよう努めている。また散歩や身体を動かしていただくことで、自然排便をうながしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者のその日の体調を確認し、出来るだけ希望に沿う時間帯や順番で入浴していただいている。	基本的には午後から、週3回入浴が出来るように設定しているが、毎日入浴したい方や仲のいい方との入浴希望等、個々に合わせて柔軟な支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動をお願いし、生活のリズムを整えるようにしている。寝つけない時に湯たんぽや温かい飲み物を提供したり、会話したりと配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は職員がいつでも確認できるように、ファイルにしている。内容の変更時には全職員が把握できるようにしている。服薬は飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備、盛り付け、後片付け、読書、見回り、清掃等利用者の経験や得意とすることを発揮する場面をつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらい、心身の活性につながるよう買い物、ドライブ、に出かけている。個別ケア先で地域の方や御家族様と交流している。	日常的な買い物や、管理者が市役所や銀行へ行く際にも声を掛けて、希望があれば一緒に外出している。また、季節を感じられるような外出の計画や、家族・地域住民も共に外出できる機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様の協力のもと、利用者様の希望や力に応じ、所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様と話がしたいときには、職員が支援をし、本人が話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは食事の準備の音や匂いがあり、障子を開けると季節感が感じられる。できるだけ共用場所には季節の花や飾りを置いたりしている。玄関の暦は利用者の作品で飾っている。	共用空間や廊下は障子が活用され和の雰囲気、暖かみがあり、天窓から日が差し込み居心地の良い空間となっている。また、日頃から近隣住民から頂いた花を飾り、季節が感じられるような配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダに椅子等を準備し、一人で過ごしたり、仲の良い利用者でゆったりとつるがるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、コタツ、写真等馴染みの物を用意したり、畳やラグマットを使用したりと居心地よく生活ができるように配慮している。日射しが強い時はすだれを掛けたり、ベットの配置を工夫している。	備え付けのベッド以外は持込みに制限せず、一人ひとりが使い慣れた物を持ってきて頂いている。コタツやテーブル、テレビ等配置され、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」や「わかること」は職員が共有し、それぞれ一人ひとりの力を活かすようにしている。トイレや居室に目印や表札をつけたり、居室内を安全に移動できるよう、家具の配置等を行なっている。		